

令和6年度 第3回学校運営協議会会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第10条第1項に基づき、次の通り学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 中津川工業高等学校 学校運営協議会（第3回）

2 開催日時 令和7年2月3日（月） 13:30～15:30

3 開催場所 中津川工業高等学校 仰星会館

4 参加者

会 長	早川 智晴	本校同窓会長
副会長	西尾 勇人	本校育友会長
委 員	新田 正己	坂本地区民生児童委員長
	黒田ところ	中津川市議会議員
	柘植富士男	株式会社NSP S S
	尾関里恵子	株式会社デンソーテン 中津川製作所
	佐々木 瞳	三菱電機株式会社 中津川製作所

学校側	加藤 昌宏	校 長
	田並 正	教 頭
	西尾ゆかり	事務長
	後藤 昭博	教務主任
	水谷健太郎	生徒指導主事
	川添 栄二	進路支援主事
	小池 勉	工業部長

5 課題研究発表見学
機械工学科（セミナー室）

6 学校長挨拶
・課題研究という授業の目的と内容について説明。

7 本校度の取り組みについて
学校の各担当より説明

8 会議の概要（協議事項）

(1) スクール・ミッションの策定について

第2回学校運営協議会で承認頂いた本校案を県教育委員会へ提出し、一部修正されたものを全会一致で承認いただいた。

(2) 外部から見た中津川工業高等学校の評価について

意見1：学校の魅力をアピールし、わかってもらう意識が生徒にもあり、嬉しく感じた。本校の良さや地元で働くことの意義をアピールし、女子生徒も増やしていけると良い。

意見2：今後生徒数が減ったとき、存続できる最低人数が気になる。10年先、15年先を見据えて運営してほしい。

意見3：体育祭の応援合戦など、地元なので昔から見に行っている。テクノボランティアやものづくり教室のイベントも大事だが、地元社会とつながる活動として続けて行ってほしい。

意見4：NHF（中津川・ハイスクール・ファイヤー）ボランティアに参加している生徒はどのくらいいるか。応急処置や防災関係の知識が身につくので是非参加してほしい。

意見5：ものづくりの大会等で優秀な成績を収めた生徒が市長の表敬訪問をしたりしているか。中津川市の学校であるので中津川市長も訪問し、広報などでPRしてもらおうとよい。

意見6：教室の授業だけでなく、社会と関わる校外での活動も多く取り入れられており、教わる立場や教える立場など様々な経験をすることができ、良いと感じました。

意見7：仕事現場などの実習や研修のような経験をすることがもっとあると良いと思います。

(3) 学校の今後の取組について

上記の意見を受けて、学校長より補足説明を行った。

- ・職員数確保のためには、定員160人の規模が最低ラインである。これを下回ると、職員の業務量や教えなければならない教科の幅の広さなどもあって手厚く指導を行うことが厳しい。
- ・本当に子どもの数が減ると、近い将来にはいくつかの学校を統合していくという流れはくるだろう。
- ・本校の取組みとして、女子制服の見直し（追加して選択制）、夏服にポロシャツ導入など心地よい環境を整えていきたい。
- ・工業高校や地元企業に対して染みついている昔のイメージを払拭していくため、できる事から工夫をし、地域の方々と一緒に取り組んでいく。
- ・私学が低額でバス通学できるようにしているため、恵那市のように生徒に対する通学費用の補助を手厚くしていただけるよう、中津川市内の公立高等学校長が定住推進部に陳情した。

9 会議のまとめ

スクール・ミッションの策定、各分掌からの今年度の動向と今後の課題や取り組みについての共有を行った。その中で、地元の工業高校に寄せられる期待や少子化への負担など、長期的な課題にも言及を頂き、ビジョンを持った学校運営の在り方を改めて問われる協議会であった。